



公益社団法人 日本山岳会

宮崎支部報

第83号



五ヶ所高原 三秀台

第36回宮崎ウェストン祭 11月3日(金)

～ コロナ禍を越えて4年ぶり開催～

1 式典

日高 研二

2023年11月3日(文化の日)午後4時から五ヶ所高原三秀台において、高千穂町との共催による第36回宮崎ウェストン祭が雲ひとつない暖かな秋晴れの素晴らしい天候に恵まれ4年ぶりに開催された。

式典は、県内外から約100名の参加のもと、高森東学園義務教育学校の五ヶ所地区出身の4人の児童による点鐘に始まり、遭難者等への黙祷、田原小学校4人の児童・宮崎支部会員2人による献花、主催者(高千穂町・日本山岳会宮崎支部)挨拶、来賓挨拶と進み、日本山岳会前副会長で「引き継がれる山岳祭」坂井広志プロジェクトリーダーにも全国の山岳祭の状況を踏まえ挨拶を頂いた。その後「ウェストン師にささぐ」詩の朗読(谷口会員)、次にウェストン祭の歌(指揮:栗林会員)を参加者全員で声高らかに合唱し、児童への記念品贈呈後、田上孝生五ヶ所公民館長の万歳三唱で終了した。今回は次世代を担う2校の児童8人に参加して頂いた。ご協力頂いた各校先生と共に感謝である。

さて、山を愛し、自然を尊び、人間愛に満ちた「日本アルプスの父」として知られるイギリス人宣教師ウォルターウェストン師は日本アルプスに登られる1年前、

1890年(明治23年)11月6日、28歳の時に祖母山に登頂されておりイギリス帰国後に発刊された著書「日本アルプスの登山と探検」の中で日本アルプスに先駆けて祖母山が紹介されており、その展望の素晴らしさを讃えている。祖母山登頂されて今年が133年目となるが、高千穂町との共催で4年ぶりに顕彰できたことは誠に意義深い。

また、1985年(昭和60年)に第1回ウェストン祭が開催されているが、開催に至るまでには先人の方々の大変なご労苦があったようである。今年で39年目を迎えるが、今日まで継続開催されてこれたのもひとえに高千穂町当局、地元地区、山愛好者など多くの関係の方々のご努力・ご支援によるものであり、心から感謝申し上げたい。

宮崎支部としても先人の方々の思いのこもったこの宮崎ウェストン祭がさらに盛り上がるよう関係の皆さま方と一丸となって取り組み、これからも県内外から多くの参加を頂き、地域の方々や山愛好者との交流がさらに深められ、今後さらにこの地域の活性化や高千穂町の発展の一助になればと願っている。



地元児童による点鐘



高千穂町長
甲斐 宗之氏



本部PJリーダー
坂井広志氏



献花

地元児童

服部・蔵屋会員



高千穂町町議会議長
坂元 弘明氏



日高研二
宮崎支部長



詩朗読 谷口会員



指揮 栗林会員



九州5支部会員

2 地元交流会

式典終了後、会場を五ヶ所野菜集出荷場に移して、午後6時から地元「田原地区村おこし推進協議会」主催で交流会を開催して頂いた。まず神事で祖母嶽神社・会澤栄喜宮司による祖母山安全登山祈願。主催者挨拶(吉永寿一会長)後、ステージで伝統芸能の神楽や踊り、オカリナ演奏、本陣太鼓そして新婚のご夫妻の点火による巨大キャンプファイヤーで会場全体が暖かい空気に包まれ、夜空を見上げると火の粉が勢いよく天空に舞い上がり、鮮明に輝く満天の星が素晴らしかった。また地元の方々準備されたうどんや地鶏・カップ酒などを頂きながら、参加者との交流も深められ、有意義な時間を過ごすことができた。地元の方々から感謝である。



地元交流会 神楽奉納

3 九州支部懇親会

ひめゆりセンターで午後8時30分から懇親会を開催。始めに意見交換の場を設け、各支部から説明を頂いた後、懇親会に移り短時間で宴たけなわ、賑やかなムードとなり、「穂高よさらば」の歌で盛り上がり、最後は会員皆で肩を組みながら会場全体輪となって山の歌を大合唱。明朝、登山隊の出発が早いこともあり、来年度の参加をお願いして9時45分お開きとする。

<参加者21名>本部PJリーダー坂井広志・清家順子・谷口敏子・多田登美子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・竹田裕見子・蔵屋とよ・風間恭子・荒武八起・日高研二・武田芳雄・多田周廣・服部岩男・四宮林三・平田五男・川越政則・栗林忠信・会員外2名
<北九州支部6名><熊本支部14名><東九州支部5名>



ひめゆりセンターにて懇親会

【ウェストン祭記念山行】 祖母山(Aコース) 11月4日(土)

風間 恭子

4年ぶりとなったウェストン祭の記念山行は各支部自由参加となり、宮崎支部は祖母山を北谷登山口から風穴コースにて山頂を目指し下山は千間平への周回とした。

最高の登山日和、今回は本部山岳祭のPJリーダーの坂井氏に宮崎の山を満喫してもらおう素晴らしい機会ともなった。

紅葉の時期でもあり、駐車場は早朝から満車状態であった。北谷登山口から沢沿いの道を歩き徒渉を繰り返す。ここ数日、晴天で岩の苔は乾燥気味で滑る心配はなかった。優しい木漏れ日が色づく木々の間を照らし、踏みしめる落ち葉の甘い香りや役目を終えてハラハラ舞い落ちる葉に五感をくすぐられる。1時間ほどで風穴の梯子に到着。風穴の中を確認するのにヘッドライトで照らした。奥が気になるが狭所、暗所は苦手だ。その後、梯子のある岩を登り一気に標高を稼ぎ稜線へ。この時期は霜柱が溶け泥濘を覚悟したが、温暖化の影響もあり汗ばむほどの陽気に霜もなく滑る心配はなかった。絶景の展望岩場で高度感に浸りながらピラミダルの古祖母、黒岳、親父岳、障子岳の烏帽子岩、天狗岩を望む。交代で写真撮影後、10:30山頂着。風もない山頂からは阿蘇の高岳、根子岳、九重連山など360度の大パノラマが広がる。全員で記念撮影後、昼食団欒となり11:24下山開始。25

分程で国見峠、そして、三県境から千間平へと下った。ここより上は紅葉の時期を過ぎていたが5合目あたりから下では奇麗な紅葉も楽しめた。展望広場から九重連山、竹田市の街を眺めながら小休憩。傾いた日差しが紅葉を一段と引き立て写真撮影につい足が止まりそうになるが先を急ぎ13:43全員無事に登山口に着いた。

<参加者12名>本部PJリーダー坂井広志・橋口三枝子・竹田裕見子・蔵屋とよ・風間恭子・荒武八起・武田芳雄・平田五男・北九州支部2名・会員外:興梠・末澤

<コースタイム>北谷登山口8:00~風穴9:00~ハシゴ場9:57~山頂10:30(昼食)11:24~国観峠11:50~3県境12:17~登山口13:43



祖母山山頂にて

【宮崎ウェストン祭記念山行】 赤川浦岳(Bコース) 11月4日(土)

多田 登美子

ウェストン祭記念山行のBコースは、祖母山の紅葉の中を散策する予定だったが、先行出発Aコース(祖母山)組を登山口に送った川越さんの情報で、登山口駐車場は道路も車が一杯で時間的に無理と判断。近くの赤川浦(あかごうら)岳に登ることになった。

赤川浦岳登山口(標高約900m)から山頂に伸びる尾根道は大・小のピークがいくつもあるものの高度差は僅かで快適な山歩きを楽しめる山である。10年以上前、宮崎100山完登を目指し恒吉さんご夫婦と雨の中を歩いた思い出深い山だ。今回は登山口駐車場は西側を大きく切り開いて広くなり、そこから見渡す空は高く広く、阿蘇五岳を中心に雄大な光景が静かに広がっていた。春にはアケボノツツジで賑わう登山道を踏みしめ紅葉の木々を愛でながら、山頂までは行かなかったが尾根道のアップダウンをゆったりと楽しむことができた。

三秀台に戻って昼食をとる。360° 展望の中、赤川浦岳の駐車場は遠目にも確認できた。ひめゆりセンターでAコースのメンバーを待ち、到着後、乗用車4台一緒に帰途につく。

途中、よっちみろ屋で本部の山岳祭PJリーダー坂井さんに御礼と感謝を込めて挨拶をして別れた。予定通り5時30分ごろヤマダ電機駐車場に帰着した。

<参加者7名> 服部澄子、栗林淳子、多田登美子、日高研二、服部岩男、四宮林三、川越政則



赤川浦岳登山口・根子岳をバックに

[8月定例山行] 大浪池 8月27日(日)

白賀 智子

この時期、台風の影響で雨が多く急に降り出したり、線状降水帯の発生で同じところに長い時間降るとい日が多い。雨の日の山行の経験があまりないので少し不安であったが当日の宮崎は晴れ。だが大浪池は下り坂の予報 頑張ろう！

8時、7名が自家用車に分乗して花見郵便局前を出発。御池の展望所に立ち寄り、9時45分大浪池登山口に到着、10時、大浪池向け登山開始。いつ降り出してもおかしくないくらい空は暗くなり5分も歩くとポツポツ降り出し、間もなく本格的な雨になった。中止？かと思いきや、「行くんですね！はい！付いていきますよ！」滑らないように気をつけながら歩く。大浪池展望台に12時に着いたときには雨は止んでいて昼食とするがすぐに降り出し急ぎ済ませる。雨脚は弱まりそうにないので、当初の計画の池周回を中止し、避難小屋に立ち寄った後下山することになった。雨に煙った大浪池を観ながら晴れた日の景色を見たいものと思った。

13時、避難小屋を出るころには雨は弱まり、帰りは景色を楽しむことが出来た。木々の美しさ、アザミや小さい花、赤いキノコ(ベニテングタケ)、コケも青々しく光ってとても綺麗だった。14時20分登山口到着。

帰途に着く頃には快晴になり「神話の里公園」から桜島と開聞岳を遠くに眺め、狭野神社で巨木を拝んだ。少々のアクシデントはあったが無事に終わった。大浪池は周回できなかったのは残念だったが、転ぶこともなく歩け(足元ばかり見て頭をぶつけたが)下りでは景色も堪能でき良い一日になった。

カッパは持っているのに、ポンチョしか持参しなかったもので、しっかり用意しないとイケないと反省した山行だった。

<参加者7名>橋口三枝子・蔵屋とよ・白賀智子・荒武八起・日高研二・四宮林三・福島龍好

<コースタイム>花見郵便局前8:00～御池9:00～登山口9:45/10:00～分岐11:10～大浪池淵12:05(昼食)12:30～避難小屋12:50～登山口着14:20～神話の里公園～狭野神社16:00～花見郵便局前17:00



雨の山行となったが、それもまた楽し・・・避難小屋にて

[9月定例山行] 俵山(Aコース) 9月9日(土)

蔵屋とよ

俵山は西原村と南阿蘇村にまたがり、阿蘇山の大噴火によって形作られた阿蘇外輪山の一部だ。南阿蘇村からは積み上げた米俵のように見えることから名付けられたともいわれる。

朝6時、11名がマイクロバスでヤマダ電機出発。北方、高森を経由して9時10分に俵山峠展望所駐車場に到着。緑に広がる丘の上には数基の風車が立っている。駐車場から少し歩くと俵山展望所が現われ展望台からは九重連山、南北の外輪山、阿蘇五岳など180度以上の絶景が見渡せる。

大矢岳を歩くグループはバスで移動、俵山登山グループは9時30分、登山開始。9月に入ってもまだまだ残暑の中、背丈ほどのカヤヤススキの間に続く登りを汗を拭きながら進む。ときどき振り返り阿蘇の山々に見とれた。その後少し緩やかな林道を20分ほど歩くと、左に長い木の階段が現われ、右側に迂回路あり。登りは迂回路を選択、下りに階段を下りることにした。迂回路は階段よりもきつくないだろうと自分に言い聞かせながら登ったあとは、少し涼しく鳥のさえずりも聞こえる気持ちのいい

尾根の林道が続いた。しばらくしてまたもや分岐、“先で合流”の手書きの標識あり。皆で右側を進む。緑色の栗が落ちて、山道脇にはイノシシが掘った跡が何か所もあった。登り始めて2.7km地点の開けた所に俵山と地藏峠の分岐がある。ここに来ると一気に視界が開け、色付いたススキがサワサワと風に揺れ秋を感じた。そこから先に伸びている急登を歩き11時20分、俵山頂上に到着。360度の絶景、山頂から西原村方面には一ノ峰・二ノ峰、冠ヶ岳の緑が美しい。南には南郷谷に田園風景が広がり阿蘇五岳が見渡せる。山頂には無数のトンボが飛び交いマツムシソウもひっそりと咲いていた。木陰を探して昼食をとり12時下山開始。2ヶ所の迂回路を登りと反対側を下り13時20分俵山峠展望所に到着。大矢岳グループと合流しお互いを労った。展望所からの景色を見納めバスに乗り込み18:00ヤマダ電機に到着。

(参加者7名)橋口三枝子・蔵屋とよ・白賀智子・荒武八起・日高研二・武田芳雄・会員外・廣島

(コースタイム)ヤマダ電機6:00～青雲橋7:40～道の駅阿蘇8:50俵山展望所9:10/9:30～俵山山頂11:20(昼食)12:00～俵山展望所13:20/14:00～よつちみろ屋15:50～ヤマダ電機18:00



すすきの草原から～～



俵山山頂から一ノ峰・二ノ峰



マツムシソウ

大矢岳(Bコース) 9月9日(土)

多田 周廣

最近、体力の衰えが気になっている私であるが、今回は栗林さんご夫妻・前原さん同行で気持ちの落ち着いた山行になった。南阿蘇外輪山の一画、地蔵峠登り口の駐車場から丸太の階段75段を登りさらに50m位登ると地蔵峠に着く。阿蘇俵山(1095m)から南方阿蘇南外輪を越える道路に使われてきた地蔵峠は天候の変化が激しいことなどから遭難者も多く嘉永の年号を刻まれた二体の地蔵尊が野ざらしのまま祀られていたが、昭和に入って九州電力の地元保線区の親子が遭難死、それを契機に九州電力熊本支店によって平成九年新しい祠が建てられたのこと。

地蔵峠から大矢岳までの道中はゆっくり登って約一時間。左眼下に南郷谷、右遠方に熊本市、後方に阿蘇五岳(高岳・中岳・杵島岳・烏帽子岳・根子岳)の絶景を見ながら歩いた。道中見た花は、マツムシソウ・アザミ他に二種類くらいであった。大矢岳の頂上は天気も良く、ただ木陰がなく暑かった、しかし、絶景であった。

頂上で休んでいると、20名ほどのグループが登って来た。佐賀から来たという。グループには男性が1名か2名、残りは女性。男性は目立たなく女性の元気のいい声が響いていた。平均年齢は74歳とのこと。このグループも会員が年をとって少なくなってきたと話していた。

頂上から地蔵峠に下って昼食としたが、そこに登りに出会った老人が一人で食事をしておられた。耳も遠くなって声を大きくして年齢を聞くと91歳、まだ自分で運転してあちこちの山に登っているとのこと。もう80歳になり山登りも体に気をつけてボツボツと思っている私には大ショックであった。

この老人がこの年になるまで山に登っておられるのは何か大きな訳があるのではないかと思った。聞けば、50歳位の時、日之影地区の沢登りで若い仲間を失ったとの事。今も毎年慰霊祭をやっているなどの話をされ、若い時から山には色々な思いを持って登っているベテランの岳人だと思った。

しかし今、ご家族はこの老人の事をどう思っているのか、一人で山に行くのはやめてください？一人で車に乗るのはやめてください？それとも奥さんは既に亡く、子供たちはお父さんの好きなようにしてあげようと思っているのか？帰りのバスの中ずっと考えた。

〈参加者4名〉栗林淳子・前原満之・多田周廣・栗林忠信

〈コースタイム〉ヤマダ電機6:00～青雲橋7:40～道の駅南阿蘇8:50～俵山展望所9:10～地蔵峠駐車場9:40～地蔵峠9:50～大矢岳10:50～下山開始11:10～地蔵峠12:00/12:20～俵山入口13:05/13:35～よっちみろ屋15:50～ヤマダ電機着18:00



大矢岳山頂

[10月定例山行-1] 矢岳 10月7日(土)

栗林 淳子

以前ナツツバキの花を求めて高千穂河原から鹿ノ原コースで山行した矢岳に、今回はツクシミカエリソウを楽しみに高原町側の矢岳登山口から登った。会員9名、会員外3名は車4台に分乗し大淀川河川敷ゴルフ場駐車場を8時に出発、皇子原公園から林道に入り標高750m程の登山口駐車場に着く。ここは高千穂峰に登る天孫降臨コースの駐車場ともなっている。

10時登山開始。途中高千穂河原への分岐で多田さんご夫妻は、高千穂河原への古道を散策されるということで別行動となる。体力に合わせて山を楽しむ姿勢は素晴らしいことだと思った。杉や赤松の巨木もある樹林帯を穏やかなアップダウンを繰り返しながら高度を上げ、30分程で矢岳川への急な下りとなる。足がすくむような急斜面を慎重に谷底へと降りてゆく。大きな岩がゴロゴロと横たわる涸沢でしばし小休止して稜線へ向かう。いい加減疲れた頃にツクシミカエリソウやツクシコウモリの可愛い花が目止まるようになり少し元気を取り戻す。やがて斜面にツクシミカエリソウの群落が見えてくる。群落を過ぎると傾斜が緩やかになり両脇の灌木を避けながら進み11時55分頂上に着く。ドンと目の前にそびえる高千穂峰を見ながら昼食をとる。12時35分竜王分岐に向かって下山開始。降り始めて間もなく盛りは過ぎていたが再びツクシミカエリソウの大群落があった。

竜王山には行かず分岐から降り14時15分無事下山し、古道を散策し一足先に登山口に着いた多田ご夫妻と再会した。

前はヤマボウシの花に元気をもらったが、今回はツクシミカエリソウとともに赤い実を沢山つけたヤマボウシと、若いゲストの皆さんに元気をもらい楽しい山行ができた。

<参加者12名> 多田登美子・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・荒武八起・日高研二・武田芳雄・多田周廣・四宮林三・会員外:廣島・金丸・戸敷

<コースタイム>大淀川河川敷ゴルフ場8:00~道の駅ゆーぱるのじり~矢岳登山口9:40/10:00~矢岳山頂11:55(昼食)12:35~リンナイ分岐13:40~矢岳登山口14:15/14:35~大淀川河川敷ゴルフ場16:15



高千穂峰を後方に 矢岳山頂

[10月定例山行-2] 高房山10月22日(日)

吉田 直人

高房山は高岡町の中心部から直線距離にして南に6.2 kmのところにある。目印は瓜田ダムで登山道のほとんどは尾根道で急登もなく安全で快適で歩きやすい。登山口から高房山三角点までは、道のりにして2.9 kmである。国土地理院の識別標高図をながめると、きれいに尾根に沿って歩いたのを確認することができる。ダム管理事務所前駐車場に車を止めてダム湖外周を反時計回りに歩いて行くと、10~15分程度で登山口に到着。登山口の標高は60m、高房山頂上三角点は337.4m、標高差277.4mで、休憩なども含めて2時間弱であった。高岡山地はなだらかな山塊で構成され、四万十累層群と呼ばれる日本列島に広がる古い地層の上に、宮崎層群が不整合に覆うという地形である。太古の昔は海の底だった。ダム湖周辺の露頭ではサンゴ化石を観察することができるという。尾根道を伝って登っていくと、比較的道幅のある林道へ出る所がある。下を向いて歩いていると、角のとれた丸い石が多数見受けられるのに気がつい

た。いつの地質年代か予想はつかないが、かつては川が流れていたのではないかと想像している。

目に写る樹木の様子からは、一帯は照葉樹林帯であることを感じることができる。さまざまな樹木をそのネームプレートに見ることができ、登山者を楽しませてくれる。カラスザンショウ、シャシャンボ、クロガネモチ、クロキ、トベラ、カマツカはほんの一例で、植生の豊かさを感じる。尾根歩きは樹木の観察にも良い。またこの季節の高岡山地の魅力はヤッコソウの群生地にもある。シノキの根元の落ち葉をやさしく取り払うと、ツヤツヤした肌色のヤッコソウが頭をのぞかせているのを観察することができた。ヤッコソウは高知県で発見され、牧野富太郎により命名された。今や希少な植物である。もうしばらくすると腕を広げ、それらしく見えてくるだろう。

道中、尾根道脇で石の祠が二つ並んでいるのを見た。一つの祠には文化12年乙亥の年“山神社”とある。西暦にすると1815年である。もう一つの祠は明治九年と

読める。江戸時代からこの辺りの住民は山を畏れて大切にしていたことを窺わせる。狩猟や生活の糧として恵みを得ていたのだろう。しかしながら、現在の地図では、高岡山地内には集落はいっさい見受けられないし、古い地図でもそれらしきものを見つけることはできなかった。ダム湖の底に集落がなかったか調べたが、それもないようである。野崎や内ノ八重、高岡間に古くから交通があったのだろう。もしくは秘密の間道か？

青空いっぱいの秋晴れで、爽快に山を登って、そしてまた爽快に降りてきた。高岡の山神様が恩恵をくれた。



真っ赤なツチトリモチ



ヤッコソウはまだ赤ちゃん

<参加者10名>橋口三枝子・蔵屋とよ・白賀智子・吉田直人・日高研二・武田芳雄・四宮林三・福島龍好・会員外・吉永・原口

<コースタイム>瓜田ダム資料館駐車場9:10～林道脇登山口9:25～山桜分岐9:57～ヤッコソウ群生地10:40～高房山山頂11:20/11:30～ヤッコソウ群生地(昼食)12:15/12:40～林道脇登山口13:56～資料館駐車場14:15



高房山山頂

【記念事業】家一郷山 11月23日(木)

白賀 智子

「山の日」は、8月11日だが、記念事業は暑さを避けるため、11月23日に加江田溪谷の奥、家一郷山への登山となる。宮崎市山岳協会主催で9団体と一般参加の方で大変な賑わいになった(82名)。今日は山に親しみ、感謝する一日にしたいと思った。また、この日は植物学者の河野耕三先生が随所でお話されるとのこととても楽しみだ。

9時40分最終のD班で、自然観察歩道西口からスタート。直ぐに急登になったが、途中、混雑して待つ時間もあったので付いて行けた。10時22分展望所(325m)到着。山々の景色を楽しむ。ほんとに良い天気だ。10時52分「遊びと学びの森」に到着する。河野先生の話に興味深く感心する。亜熱帯植物の北限は加江田溪谷と猪八重溪谷であり、また、氷河期や地球温暖化のサイクルにより何万年単位で森の植生が変わっていくという。自然も人間も大事に守っていきたくて教わった。



河野耕三先生の説明に興味津々

11時35分山頂(437m)着。低山だが最後の急登は、運動不足の私にはしんどかった。お昼には早いので少し下ってから食べることになり、途中から別ルートで下山。再度、河野先生からヤッコソウの雄しべの帽子が取れて帽子の下の雌しべが現れる話に、このような生態を知るのは面白いと思った。12時30分展望所に戻り、昼食をとり13時35分登山口着。

お天気にも恵まれ久しぶりに登山された方や、初めて参加された方も無事に下山ができてとても良かった。ボランティアの方の甘酒の振舞いを頂き心も体もポカポカで帰路に着いた。

<参加者15名>清家順子・多田登美子・服部澄子・栗林淳子・林田明美・蔵屋とよ・白賀智子・日高研二・別府正保・武田芳雄・多田周廣・服部岩男・川越政則・山上章二・会員外・小島

<コースタイム>自然観察歩道西口9:40～展望所10:22～遊びと学びの森10:52～家一郷山頂11:35～展望台12:30(昼食)～登山口13:35



家一郷山山頂

【第36回全国支部懇談会・みなかみ】 9月23日(土)～24日(日)

橋口 三枝子

第36回日本山岳会全国支部懇談会が4年ぶりに群馬支部の主管で9月23日～24日に開催された。群馬県みなかみ町の水上館を会場に全国から158名の参加となった(宮崎支部からは5名)。16時半から群馬支部長の挨拶に始まり「今、谷川岳で考える安全登山」の演題で講演会となる。講師は群馬県警谷川岳警備隊長 伊東武氏。18年間で警備隊で山岳遭難者の救助や遭難防止活動の任務に当たってこられた。スライドを見ながら救助訓練の様子、救助例の説明を受けた。事故は谷川岳が多いが意外にも岩場より一般ルートの天神尾根、西黒尾根が多く発生している。そして次に多いのが尾瀬で木道が滑りやすく落ちて骨折などの怪我が多い。事故の原因としては、登山の装備ができてない。ライトの使い方が分からなかったケースもあるとのこと。

基本的な事を守っていれば防げる事故は多いだろうが何が起こるか分からないのも登山の恐さで最後の1歩まで慎重に歩かなくてはいけない。そして、登山者、遭難者を守っている救助隊員の厳しい訓練を忘れてはいけない。改めて考えさせられる講演であった。

このあと18時半より懇親会は、三国太鼓のお腹に響く力強い太鼓の披露から始まった。群馬支部長・根井康雄氏の「近くて良い山と呼ばれ、また魔の山とも呼ばれる谷川岳へ」ようこそと歓迎の挨拶。日本山岳会会長・橋本しをり氏の挨拶では「支部は要」と思っているとも話された。日本山岳会副会長・桐生恒治氏の乾杯で酒宴に入った。

宮崎支部はバラバラに座ることになり知らない中に座る不安もあったが、それが効を奏して他支部の方との交流が弾んだ。各支部から提供された銘酒も美味しくいただき大変有意義な懇談会となり2時間はあっという間に過ぎた。

最後に次期開催の神奈川支部から5月25日～26日を予定していると報告があった。

一ノ倉沢ハイキング

2日目は谷川岳の岩場を望む山麓のハイキングで8時にホテルを出発、谷川岳インフォメーションセンターから素晴らしい青空のもと各班に分かれ往復8キロの一ノ倉沢までのハイキング。歩きはじめは急坂で息が上がるが、あとはなだらかな歩きとなり、谷川岳の素晴らしい景色を堪能しながらの歩きとなる。マチガ沢に9時半、ここからは険しい谷川岳がかっこいい。一ノ倉沢に10時到着。目の前にクライマーのあこがれの一ノ倉沢の岩壁は圧巻。登れなくても見るだけで感動。一ノ倉沢は世界でも登攀に困難な岩場の一つに数えられ、穂高とともに日本3大岩場となっている。

インフォメーションセンターに11時30分到着。昼食をとり、その後宮崎支部はバスにて上毛高原駅へ送ってもらった。余韻に浸りながらの帰宮となった。

今回、支部懇親会を開催されるにあたり大変なご苦労があったと思います。群馬支部の皆様に感謝申し上げます。

<参加者5名> 橋口三枝子・蔵屋とよ・荒武八起・日高研二・武田芳雄



「今、谷川岳で考える安全登山」伊東 武氏 講演



水上館にて158名が集う懇親会



一ノ倉沢から谷川岳

全国支部懇関連山行・谷川岳 9月22日(金)

荒武 八起

9月23～24日の日程で開催された第36回全国支部懇への参加に先立ち21日に宮崎を立った。機体が宮崎市街地の上を旋回し東に向きを変え高度を上げる頃にはいつものことであるが雑用もここまでは追いかけてこないという安堵感が訪れる。そして新幹線の心地よい揺れに身を任せ缶ビールを楽しむ頃には旅に出た時のあの何とも言えない期待感とロマンに浸ることができた。その日は水上温泉郷に宿をとり翌日に備えた。

22日、空模様はすっきりしないがまずまずの登山日和である。紅葉にはまだ間があるためか朝の谷川岳ロープウェイ駅に登山客は少なく我々以外には数名のみであった。天神平に降り立つと眼前に谷川岳・朝日岳、そして遠くには武尊山(ほたか山)、赤城の山々がわずかに雲を宿して聳えていた。出発前に記念写真を撮った後、安全登山を合言葉に出発した。

歩き始めは木道が整備されており傾斜も比較的緩かったが、途中から登りも急になり湿った岩は滑りやすかった。熊穴沢避難小屋・天狗の留まり場・ザング岩への急坂を喘ぎ喘ぎ登った。途中まで良かった天気も肩の小屋に向かう頃には霧に包まれ山々は全く見えなくなった。肩の小屋で昼食をとった後、谷川岳双耳峰の一つトマの耳で記念写真を撮り下山した。ここより14m高いオキの耳は濃霧のため断念した。

不規則な岩尾根を下りながら千葉支部主管の全国支部懇の折、宮崎支部の記念山行としてここを訪れた時のことを懐かしく思い出した。帰宅後、調べてみると11年前の平成24年10月22日のことであり、写真には全山紅

葉の素晴らしい中に参加者17名のはつらつとした顔が拝見できた。今回は5名の参加で多少寂しかったがチームワークも良く、安全登山を終えることができ誠にありがたく思っている。谷口会員より可憐なサギソウの写真を添えて「白鷺の翼に乗りて行きたしよ再び見上げむ一ノ倉沢」いう歌をlineでいただいたので、「届きや風に託して送りたる谷川岳の秋の装い」と返歌した。

翌23日の午前中は、朝風呂を楽しみ、公園の足湯に浸り、諏訪峡周辺を散策するなど支部懇受付までの時間をのんびりと過ごした。恥ずかしいことであるが、この川が利根川として関東平野を東進して千葉県沖に流れ込んでいることを初めて知った。また、若山牧水や与謝野晶子など著名な方々がここ水上温泉で作られた歌にも接することができ心豊かな気持ちに浸ることができた。その中の一つを紹介したい。「**山かげに流れすみたるみなかみの静けささまをおもひこそやれ 牧水**」

今回の支部懇は第36回であった。思えば令和2年(2020)5月開催として準備を整えたが衰えぬコロナにより中止を余儀なくされた「幻の宮崎支部主管第36回」。それから2年間の空白を経て全国の山仲間と久しぶりに楽しい時間を共有できたことに感謝しつつ帰途についた。

<参加者5名> 橋口三枝子・蔵屋とよ・荒武八起・日高研二・武田芳雄

<コースタイム> 天神平9:20～熊穴沢避難小屋10:20～天狗の留まり場11:25～肩の小屋12:30(昼食13:10)～トマの耳13:20～天神平15:20



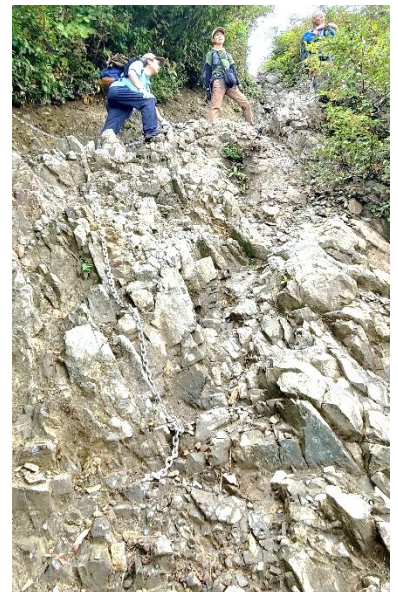
谷川岳の岩登りを満喫



目指す谷川岳



ガスの中の山頂だが大満足



【自然保護委員会】 双石山、塩鶴・小谷登山道整備作業 10月21日(土)

前原 満之

暑かった夏だったが、最近朝晩めっきり冷え込んできた。そんな中、宮崎市山岳協会の登山道整備作業への参加である。朝8時に集合し塩鶴と小谷登山口に分かれて作業に入る。今回は登山道整備ということで、それぞれに4台の草刈り機が入った。草刈り機のそばに近付かないよう、指示を受けて作業に入る。双石山は結構事故も発生しているため、今回の作業が皆さんの安全な登山に少しでも役立つことを願い取り組んだ。今日は登山道整備であるが、私としては苗木救済をどうしてもしたいので、登山道整備は皆さんにお任せし山中に分け入った。気付いた苗木の状況を列記する。■ヤマモモが倒れ、横倒しとなっている。⇒ひとまず近くの蔓で起こした(うまく活着すればいいが...) ■ヤマザクラに蔓が、らせん状に深く食い込んでいる⇒このままではヤマ

ザクラは締め上げられてしまう■ヤマザクラやモミジを蔓が覆い、枯れるのが危惧される。こういったことから総じていえば、草もそうだが今は蔓退治が大事である。下草刈の作業の時も、とかく登山道脇を切るだけの作業になっている面がある。今後の活動で皆さんの力を借り山の中に入り、苗木の所にかけて1本でも多くの苗木を助けたい。

作業は2時間20分ほどで終了。気付くと服には草の種(ひつつき虫)が一杯くっついておりこの時期はこうなるということ思い知らされた(皆さんで取ってくれて助かった)。参加者総数は38名(当支部12名)であった。

(参加者12名) 多田登美子・服部澄子・橋口三枝子・蔵屋とよ・風間恭子・前原満之・荒武八起・日高研二・武田芳雄・多田周廣・服部岩男・川越政則



清掃登山・小谷登山口周辺清掃作業 12月9日(土) 前原 満之

今年も、宮崎市山岳協会の協力を受け、清掃作業を実施した。今回の作業場所は小谷登山口から約900mの駐車スペース及びその下の山林である(電柱番号赤木分29~30)。今回、駐車場を小谷登山口ではなく、その先(赤木分18~19)としたため、荒武前支部長等に小谷からの車の誘導をお願いし、誘導後その方々には今回の作業場所まで(昨年まで実施したエリア)のゴミ拾いをしながら上がってもらった。参加者にも駐車場から作業場所まで約400m歩いていただいた。今回の場所も積年のゴミが大変多く、いつも山岳協会でご準備いただくフレコンバッグ(集草袋)及びロープが威力を発揮

した。回収したゴミは、88袋(燃えるゴミ66. 燃えないゴミ22)と袋に入らないタイヤ、ポリカ波板、布団、ゴルフバッグその他諸々である。作業は8時から約1時間20分で終わり、現場に置いたゴミ袋(環境美化ボランティア袋)は後日、市環境業務課にて回収し、袋に入らないゴミは県土木事務所にクリーンロードみやざき推進事業として回収してもらった。作業後の登山は、第2展望所までとして、橋口さんのみ1名で実施した。

なお、作業後4名で近くの竹林に行き、小谷登山口植栽地用の目印竹を82本(約1.3m)切り準備した。

※ 赤木分〇〇というのは、近くに立つ電柱のNTTの電柱番号で場所の特定に有効である。

参加者32名(当支部15名) 清家順子・谷口敏子・多田登美子・服部澄子・橋口三枝子・前原満之・荒武八起・黒木孝信・日高研二・谷口菊美・多田周廣・櫻木勉・服部岩男・川越政則・山上章二



ゴミの山を前に、不法投棄絶対ダメ!



回収したゴミの分別作業

月例登山研究会の活性化について

荒武 八起

現会員・会友60名の中で毎月第一木曜日に開催している山岳研究会の参加者は、15～16名と約1/4である。参加者の割合を遡って見ると、会員が100名の頃で30名前後、200名と最も多かった頃でも50名前後であったので、今が特に出席率が低いということではない。研究会では多くの事項を2時間という短時間のうちに話し合うので役員の方々には大変なご苦勞をおかけしているのが現状である。

一方、月に一度の研究会が打ち合わせ事項だけで終わることに何となく物足りなさを感じるのも事実で、それを解消するために、これまでに表1に示すようなミニ講話を入れてきた。しかし、担当する会員は限られている。宮崎支部は各分野で活躍されたあるいは現役でご活躍中の多士済々の会であることから、もっと広くいろいろなお話を伺えると本会がさらに充実するのではないかと考える。

登山の技術的なことはもとより、文学・植物・動物・気象・・・どんな分野の事でも結構だと思う。人前で話すことには勇気がいるが、自己啓発の意味も含めて積極的にお話いただければ幸いである。蛇足と思いつつ、より実りある支部活動のために提案申し上げたい。なお、支部総会における記念講演のうち支部会員による講演は表2の通りである。

畑島 良一
安全登山
ザイルワーク
救急法
桜木 勉
それが脳のスOS、体は変わる力を持っている
暑さを乗り切る、夏バテ防止策、腸バテケア対策
ご存じですか? オーラルプレイル
ガチガチの肩甲骨、がんを早期に見つける
家族で地域で健康長寿を目指す
もしかしたら、あなたも「かくれ不眠」
同年代の健康スコア大公開
見逃さないで、その忘れ物サイン
荒武 八起
酸素はなぜ必要? エネルギーの獲得は?
血液と呼吸のはなし
筋肉について考える
焼酎は体に良い? のん兵衛の言い訳
低山登山の効用
マダニとSFTS(重症熱性血小板減少症)
山で雷にあつたらどうする?
ヤマビルについて
毒蛇について
基本的なザイル・ロープの結び方
登山におけるヒヤリハット 報告の重要性

表2 支部会員による支部総会時の記念講演 (2009年以降)

総会年度	演者	演題
2009 H21	大西 雄二	宮崎の感染症 その歴史と風土
2010 H22	樋之口 正光	山岳遭難 検証・分析と事故防止対策
2012 H24	外山 三博	シルクロードの旅
2014 H26	石井 久夫	霧島の生きものたち
2018 H30	吉田 ナオト	双石山湧水中から発見された珍しい紫色細菌
2019 R1	畑島 良一	古代歴史の謎 邪馬台国
2023 R5	栗林 忠信	健康に長生きしよう

第29回中央公民館まつり

中央公民館まつりが4年ぶりに開催された。主催者発表627名と前回より多くの来場者で賑わった。公民館祭りは、公民館を利用して生涯学習としているグループ、団体が日頃の成果を発表する場として開催されている。日本山岳会宮崎支部は、年間の行事を部門ごとにまとめたパネル7枚、支部報など展示した。多くの方に門戸を広げる重要な場ともなっている(文責 橋口)。



宮崎支部 展示コーナー

新人です どうぞよろしく!



新入会友の山上(やまうえ)章二と申します。1962年鹿児島県生まれです。宮崎市民プラザの「宮崎市民活動センター」で働いています。仕事柄、ボランティア団体の方と接する機会があり、現在の日本人男性の平均健康寿命年齢は

約70歳との事。気づけばあと10年。一昨年から健康維持の為、友人と山行していましたがスケジュールが合わない事が多く、もう少し登ってみたいと考えていました。そこで、お声掛けさせていただき、会友として加入させていただく事となりました。

今後、登山道の整備や清掃活動にも積極的に参加させて頂きたいと思っています。山行経験が少なく、ご迷惑をお掛けすることも多いかと存じますが、ご指導の程よろしくお願ひ致します。

支部行事予定表(1月～3月)

[事務局だより]

月 日	行事名	備 考
1月11日(木)	290回定例登山研究会	宮崎市中央公民館 18:00
1月13日(土)	定例山行 小松山(日南市)	新年登山 清武クロスモールナフコ7:30発
1月20日(土)	双石山登山道整備	宮崎市山岳協会主催 小谷登山口8:00集合
1月28日(日)	定例山行 生目古墳散策(宮崎市)	生目古墳群駐車場 9:00発
2月1日(木)	291回定例登山研究会	宮崎市中央公民会 18:00
2月10日(土)	定例山行 綾岳	綾町 大淀川ゴルフ場河川敷 8:00発
2月25日(日)	定例山行 ニツ岳	高千穂町 ヤマダ電機駐車場 6:30発
3月7日(木)	292回定例登山研究会	宮崎市中央公民館 18:00
3月9-10(土・日)	諸塚山山開き(熊本支部との交流会)	ヤマダ電機駐車場
3月17日(日)	双石山・加江田溪谷山開き	宮崎市山岳協会主催

支部会務報告(9月～12月)

月 日	事業・行事	開催場所	人員	備 考
9月7日(木)	286回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	17	
9月9日(土)	定例山行 俵山・大矢岳	南阿蘇外輪山	11	
9月22日(金)	記念登山	谷川岳	5	全国支部懇記念山行
9月23-24(土・日)	全国支部懇談会	群馬県	5	群馬支部主催
10月5日(木)	287回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	15	
10月7日(土)	定例山行 矢岳	高原町	12	
10月19日(木)	ウエストン祭高千穂町と打合せ	高千穂町	3	町役場、田原、高森東小学校
10月21日(土)	双石山登山道下草払い	双石山登山道	12	市山岳協会主催(総38名)
10月22日(日)	定例山行 高房山	宮崎市高岡町	10	
11月2日(木)	288回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	13	
11月3-4日(金・土)	宮崎ウエストン祭	高千穂町	20	記念山行、祖母山・赤川浦岳
11月17日(金)	委託登山事前打ち合わせ	宮崎市家庭裁判所	1	
11月18日(木)	公民館祭りパネル作成	活動センター	8	
11月23日(木)	家一郷山の日(振替)	徳蘇山系	15	市山岳協会主催(総82名)
11月25-26日(土・日)	中央公民館祭り	宮崎市中央公民館	16	
11月29日(水)	宮崎家庭裁判所委託登山	双石山	12	
11月30日(木)	宮崎家庭裁判所受託者会議	宮崎市家庭裁判所	1	
12月2日(土)	全国支部連絡会議	東京京王プラザ	1	年次晩餐会
12月7日(木)	289回定例登山研究会	宮崎中央公民会	15	
12月9日(土)	清掃登山	双石山登山道周辺	15	総数32名
12月9日(土)	支部晩餐会	浜乃瀬	21	
12月16日(土)	支部報編集作業	活動センター	7	

投稿のお願い山行に関するものはもとより、随筆・詩・短歌・俳句など何でも結構ですので皆様の積極的な投稿を何卒よろしくお願ひします。また支部報に関するご意見などありましたら編集委員会へ忌憚なくお寄せください。

カラーページのご案内 配布します本支部報は、経費節減のため白黒印刷ですが、日本山岳会ホームページの宮崎支部を開きますと全カラーで閲覧できますので是非ご覧ください。

編集後記

コロナ過で、様々な制約を余儀なくされる中でも自然は変わらない瑞々しい生命の息吹で楽しませてくれます。予定の山行も五山実施することができ、新緑や咲き盛る花々を堪能したことが、寄せられる山行記録からわくわくと伝わってきます。皆様のご協力真に有難うございました。高齢化で全員参加がだんだん難しくなる昨今、それぞれのペースで楽しく参加できる「共に・助け合い・喜び合う」という支部であることを嬉しく誇りに思います。「さあー 先ずは一步から！」(谷口)

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 83号
発行責任者: 日高 研二

編集委員: 橋口三枝子(編集委員長)、荒武八起、
谷口敏子、多田登美子、栗林淳子、蔵屋とよ
事務局: 橋口三枝子

〒880-0930 宮崎市花山手東3丁目11-6

Tel, Fax 0985-51-4179, 090-7450-6406

E-mail: hashimie2713@gmail.com

口座: 郵貯銀行 記号 17310 番号16269811

名義人: (社)日本山岳会宮崎支部